

木場 律志 氏 学位審査結果の要旨

主査：中村 加枝

副査：日下 博文、木下 利彦

アミラーゼの唾液中活性は交感神経活性を反映し、血中ノルエピネフリン濃度と強く相関するとともに、即時応答する。したがって、不安や緊張が関与する疾患の治療効果判定に有用となる可能性がある。そこで、不安、緊張と強い関連があるとされている機能性身体症候群 (functional somatic syndrome ; FSS) 患者を対象とし、治療手段として、リラクセーション法の一つである自律訓練法 (autogenic training ; AT) を用い、第 1 日目の訓練実施前後、8 週後の実施前後の計 4 回、唾液アミラーゼを測定し、有用性を検討した。

第 1 日目 AT 開始前における唾液アミラーゼ値は、FSS 群で健常対照群に比べて高値、AT 後には健常対照群と同レベルまで低下した。これらの変化は痛みの尺度である Visual Analog Scale による臨床症状の変化と相関していた。以上より、唾液アミラーゼ測定が、自律神経障害を伴う FSS の新たな非侵襲的・客観的治療指標としての有用性が確認された。